

俳句

朝日さす荒地おひし霜の花
綿引 英子
千度超す窯横たはり秋の星
中野 千賀子
秋霖や沖に島なす塵芥
飯田 勇一
姫降ろすやうに平らに菊降ろす
竹内 幸子
観音をふちどる光冬はじめ
田口 勝元

文芸しろさと

短歌

さるすべりピンクの花まり美
しく夏から秋まで長く楽しむ
所 美恵子
晩年の母が言ひゐし事々が
解かる 齢と吾もなりたり
渡辺 千紗子
頬にふる風が冷たき田舎道
彼岸花の赤ほのあたたかし
山形 式妙
神秘なる大正池の朝もやの
映像なつかし旅の思ひ出
杉山 みちこ



川柳

コロナからマスクの色も様変わり
富田 多蔵
コロナに明けてコロナで暮れる令和二年
車田 綾子
マスク越し言葉かけたが誰だっけ
川原 清
42位蘊蓄語る茨なまで
飯村 孝一



数々の刀傷ある柱群二百余年の歴史の中に
大森 久子

久々に亡夫によく似し末孫を見るに遠き日甦り来る
佐川 あや

毛糸編みしながら短歌考えて
ふと冷えて来た膝に手をやり
信田 育子

陽を受けて中禅寺湖のキラキラと息子の運転で走るは嬉し
富田 佐智子

あふれ咲く庭の小菊の色彩さまざまありていづれも愛し
萩谷 登喜子



茶の間には孫から届いたプレゼント心浮き立つ赤いベコニア
富田 欽子
音立てて師走の風の吹く中を甥は歳暮の鮭持ちてくる
矢次 洋平

しろさとまち通信 地域おこし 通信

一城里町地域おこし協力隊 Vol.56

城里町地域おこし協力隊の連載、12月号は近藤修が担当します！



▲牛の世話をしている様子

こんにちは。農業部門で繁殖と牛の研修をしている近藤修です。子牛の出荷にともない、今月で地域おこし協力隊を退任することになりました。一年目は研修を行いました。二年目は初めて牛を導入し、出産も経験しました。出産の際は何もできず、農家の先輩に手伝ってもらいながら、なんとか無事出産させることができました。見ていることしかできなかった自分へ悔しい気持ちと、子牛が生まれた喜びとで複雑な気持ちになったことを今でも覚えています。三年目の現在は、牛の病気や怪我など、いろいろな事がありました。そのたびに先輩農家の皆さんに様々なアドバイスを受けています。今後はともにご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

いただきながら、乗り越えてきました。また、牧草畑もなんとか作りあげることができました。最後になりますが、何も農業の事を知らない私に親切にしてくださいました。農家の皆さんや地域の先輩方、役場の方など多くの皆様のおかげで出荷まで辿りつくことができました。この三年間で一番得たことは、先輩方のように自分の損得ではなく、人のために考えられる人になりたいと思えたことです。自分にも後輩ができたなら、先輩方のように全力で相手の事を考えられる人になるために、研修で学んだ事を活かして日々精進していきます。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

問合せ
農業政策課
☎029-288-3111 (内線253)